

筑波大学におけるORCIDの活用例について

著者	小山 慎一
内容記述	「ORCID (Open Researcher and Contributor ID) 」説明会 日時：令和元年12月20日(金) 15:00-17:00 場所：筑波大学 大学会館国際会議室 主催：筑波大学研究推進部・学術情報部
発行年	2019-12
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159252

筑波大学におけるORCIDの活用例について

芸術系 小山 慎一



Scopus Preview

9件の検索結果 (2019年11月20日現在)

著者の姓 "koyama", 著者の名 "shinichi"

検索式の編集

かつては職場が変わるごとに新しいKoyama Shinichiが誕生していた

項目を選択して絞り込み

絞り込む 除外する

出版物名
著者所属機関
市
国/地域

絞り込む 除外する

すべて 著者プロフィールの統合を依頼

	著者名	文献数
<input type="checkbox"/> 1	Koyama, Shinichi	72
	最新文献を表示	
<input type="checkbox"/> 2	Koyama, Shinichi	41
	最新文献を表示	
<input type="checkbox"/> 3	Koyama, Shinichi	9

ORCID ID を取得したきっかけ

- 2016年11月に取得。筑波大の公募に応募するため。

ORCID を使用するメリット(1)

- 私にとっては「守備的」なメリットが強い
 - 職場が変わっても大丈夫
 - 名前が変わっても大丈夫
 - なりすまし・乗っ取りを防ぐ(妄想ですが)

ORCID を使用するメリット(2)

- よりポジティブなメリットとしては・・・
 - TRIOSなどのデータベースへの自動入力
 - 手入力の仕事を減らしてくれている
 - ⇒TRIOSからResearchMapへは業績データが自動的に転送されるため、結果的に科研費申請の作業も軽減？
 - ⇒科研費の研究者番号の代わりにORCID を使うことによって国際的な研究資金への応募が容易になる？

ORCID を使用するメリット(3)


- ORCID を使うと論文閲覧数や引用件数が増えるのではないかな？

Koyama, Shinichi

著者候補を表示

 <http://orcid.org/0000-0001-6280-5750>

所属機関: 

University of Tsukuba, Tsukuba, Japan [さらに表示](#) 

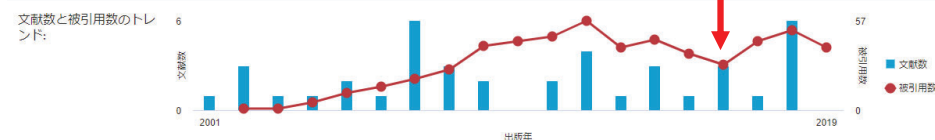
分野: [Medicine](#) [Neuroscience](#) [Psychology](#) [Engineering](#) [Computer Science](#) [Biochemistry, Genetics and Molecular Biology](#) [Agricultural and Biological Sciences](#) [Multidisciplinary](#)
[Business, Management and Accounting](#)

文献数
41

被引用数の合計
553回 (505 件の文献による)

h-index: 
11

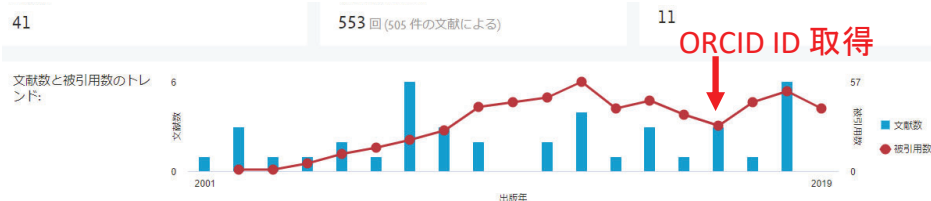
ORCID ID 取得



ORCID を使用するメリット(3)

- ORCID を使うと論文閲覧数や引用件数が増えるのではないかな？

芸術系URA松山久美先生、NIMS田辺浩介先生からのご回答:
「影響はあると思われるが、交絡があると考えられ、ORCIDの直接的影響の統計的エビデンスをとるのは難しい」



ここまでのまとめ

- ORCID活用によって、名前や職場が変わっても研究業績が正しく認識されるようになる
- ORCID活用によって、余計な手仕事が減る

社会的な視点からORCID のメリットを考える

- 某大学ではResearchMapのようなシステムを以前より自作・運用していた。便利だが維持コスト(お金・労力)はそれなりにかかっていた。



社会的な視点からORCID のメリットを考える

- ResearchMapに切り替えれば、大学の負担なくより大きなネットワークを利用できる



大学内の職員番号⇒科研費研究者番号⇒ORCID ID と、より国際的で、統合的な番号を使用することによって、低コストで便利なデータベースが構築されていくのではないかと？

まとめと結論

- ORCID活用によって、名前や職場が変わっても研究業績が正しく認識されるようになる
- ORCID活用によって、余計な手仕事が減る
- ORCID活用によって、世界のどこで、誰が、どのような研究をやっているのかが、よりわかりやすくなる
- ORCID活用によって、研究の透明性が高まる

ご清聴ありがとうございました